

チセ（家）の建て方と川

環境

第1章 十勝の平野や川がでるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

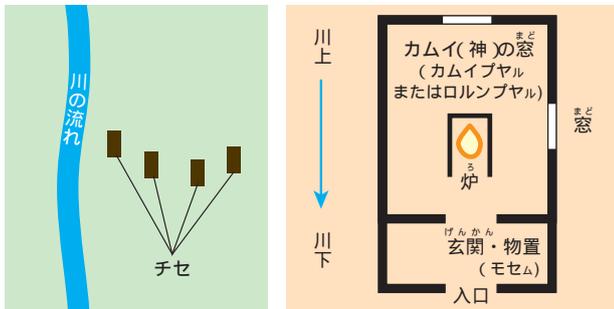
第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん



かみしほろちやう とうせんえん ふくげん
上土幌町・東泉園に復元されたアイヌ民族の家(チセ)。右手おくに見えるのは、イオマンテ(3)のための子グマのおり。上土幌ウタリ文化伝承保存会。



川の流れと、チセ(家)の向き。チセ内部を上から見たイメージ。

家のことをアイヌ語で「チセ」といいます。

チセは、上から見ると、だいたい長方形の形に建てられます。カシワ(アイヌ語でコムニ)やハシドイ(ブンカウ)などの丸太を柱にして、骨組みにはヤチダモ(ピンニ)などを使い、壁や屋根にはヨシ(別名アシ:アイヌ語でサルキ)やススキなどの草の茎を厚く張ります。

復元されたチセで夜を過ごした人の話によると、夏はずすしく過ごしやすく、冬は、炉でおき火を絶やさないようにしておけば、暖かく休めたということです。

これは、厚い草の壁が、今でいう「断熱材」になっていたためです。

チセの向き

チセは、コタン(集落)の近くにある川の流れと平行に建てられました。

川上の窓(ロルンブヤル〔上座の窓〕)は、カムイ(神)が入り出る「カムイプヤル〔神の窓〕」として、大切にされました。人が外からのぞいてはいけません。

人の出入り口は、川下側にありました。ここに玄関と物置を合わせた「モセム」という、張り出しが作られることもありました。(カムイ p134)

チセの中

チセのだいたい中央には「炉」が作られ、ここで火をたいて、煮炊きをしたり、部屋を暖めたりします。炉の上には「炉だな」が作られ、そこから「炉カギ」が下がっています。

炉だなやその上には肉や魚を下げ、けむりでいぶして「くんせい」を作り、保存食にします。

炉カギには鉄なべなどをかけて、料理をします。

また、火はとても暮らしに大切なので、身近な「カムイ(アペフチカムイ)」とされ、炉の左おくに「イナウ」が立てられています。(カムイ p134)

床は土間ですが、そこにかわかしたヨシやススキなどの草をしきつめます。その上に、同じくヨシやススキなどで作ったすだれをしき、さらにその上に、ガマ(水草の一種:シキナ)などで織ったゴザ(キナ)をしきました。

季節によって下草の厚さを変えることで、過ごしやすくしました。



かみしほろちやう とうせんえん ふくげん
上土幌町・東泉園に復元されたチセの内部。左おくの窓が、「カムイプヤル(神の窓)」または「ロルンブヤル(上座の窓)」。

外からのぞいてはいけない。復元:川上英幸氏、上土幌ウタリ文化伝承保存会。(なお、東泉園のチセの床は土間ではなく、高床につくってある)

1 おき火(おきび・燻火):まきが燃えたあと、炎(ほのお)がおさまり赤くなったもの。赤く熱した炭火。おこし火。おき。炉(ろ)で炎が立つほど燃やすと、空気の対流のため風が起き、外気をすいこむのでかえって寒くなるという。

2 断熱材(だんねつざい):熱を伝わりにくくするための材料。家の場合、外の暑さ・寒さを伝えず、部屋の中の温度を保つはたらきをする。グラスウールなど。

かみしほろちようとうせんえん かわかみ けっしょう
上士幌町、東泉園のチセ ... 川上さんと仲間の苦勞の結晶

上士幌町に住む川上英幸さんは、十勝のアイヌ文化を伝えていこうと、人に聞き、資料を調べ、北海道各地をまわり、上士幌ウタリ文化伝承保存会の仲間たち（アイヌも和人も）といっしょにチセをつくり上げました。

チセのまわりには、カムイ（神）をまつる祭だん（ヌサ）、クマの霊送り（イオマンテ）のための子グマのおり、高床式の食料庫なども作られていて、アイヌ民族の伝統的な生活を感じることができます。また、さまざまな生活用具なども作られています。

チセをつくる時は、まず屋根の骨組みをつくります。次に地面に柱を立て、その上に屋根を乗せます。壁や屋根にかわいた草を厚くふいて、できあがりです。

屋根の骨組みでは、三本の丸太を「三脚」のように組み合わせたものを、両はしに取り入れています。三角形は、「トラス構造」といって、形をこわれにくくするための基本形です。



東泉園の位置。上士幌町字上音更。

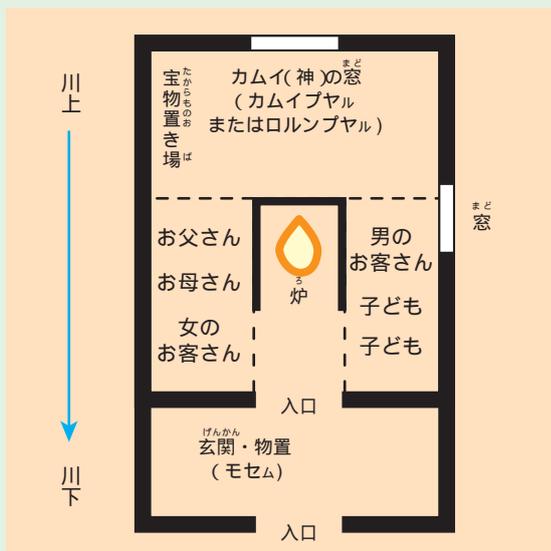


高床式の食料庫につけられている「ネズミ返し（ネズミを防ぐしかけ）」の説明をする川上英幸さん。上士幌町・東泉園。



東泉園につくられたチセの、屋根の骨組み。手前とおく、それぞれに三脚のような丸太組みがある。（黄色の矢印）

川の流れと神様の方向を考えて ... 体験・観察のポイント



チセの中では、居場所がきちんと決められていた（上から見たところ）。

まずお話を聞く

どんな物よりも、どんな資料よりも、実際に経験している人の話は貴重です。

川の流れる方向をつかむ

東泉園のチセは、川の方向に合わせてつくられています。近くの小川や音更川が、どちらに向かって流れているかを確かめましょう。

チセの中で家族になってみる

チセの中に入れたら、お父さん、お母さん、子どもの役を決めましょう。かつては左の図のように、すわる場所がきちんと決まっていた。

また、男のお客さんは、入口に立ってせきばらいをすると、家の女の人が出むかえます。また、女のお客さんは、入口にしゃがんでせきばらいをします。入口のすだれは、右側を左手でかき上げるのがマナーでした。

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、そして未来へ

用語

さくいん

3 イオマンテ：子グマをコタン（集落）で1年ほど育て、その霊（れい・カムイ）に多くのおみやげを持たせ、親のいるカムイの国（カムイモシリ）に返して（帰して）あげる（送る）、という儀式（ぎしき）。クマのほか、シマフクロウなどでもおこなわれる。

4 イナウ：折り（いのり）のこたばをカムイ（神）へ伝えてくれるもの（祭祀具：さいしぐ）。カムイへの「おくりもの」でもある。木をけずってつくる。